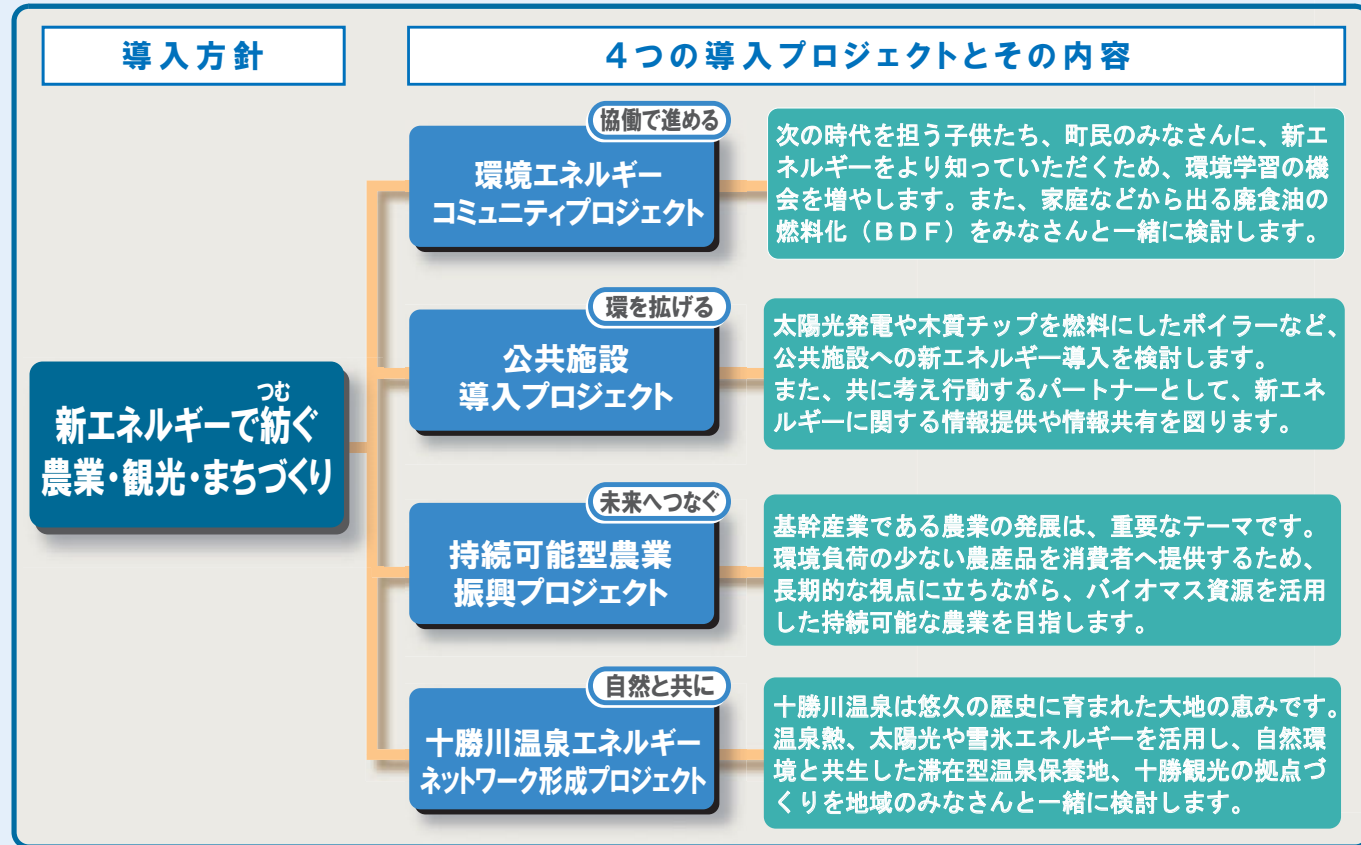


6 新エネルギー導入方針

新エネルギーの導入で豊かな環境づくりをすすめ、地球温暖化防止と町の振興の両立を図ります

本町の地域の特性を生かしながら、4つのプロジェクトを柱として、地球温暖化防止と町の振興の両立を図ります。

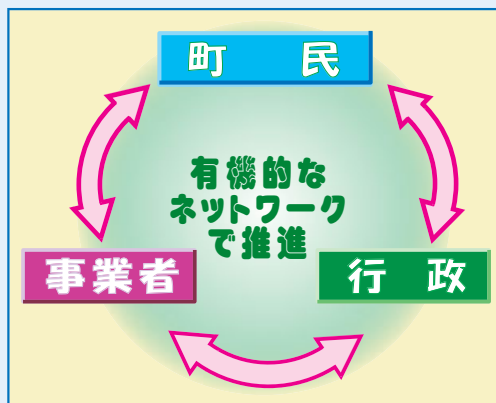


7 協働の“環”で導入推進

町民・事業者・行政の協働で導入を推進します

新エネルギー技術の進歩は、まさに日進月歩です。今後、町民・事業者・行政がパートナーとして情報を共有していきながら、有機的なネットワークをつくり、町の振興、持続的な地域社会に向けて取組みを進めていきます。

町一丸となり新エネルギーの導入に取組んだ場合に削減できるCO₂の量は7,000トンになり、これを町の目標値に設定します。



新エネルギー導入目標値

CO₂に換算して、7,000 トン分相当

音更町地域新エネルギービジョン（概要版）

2006年2月発行

企画/編集

北海道音更町企画部企画課

〒080-0198 北海道河東郡音更町元町2番地

電話 0155 (42) 2111 FAX 0155 (42) 2117

ホームページ <http://www.town.otofuke.hokkaido.jp/>

このパンフレットは概要版です

新エネルギーに関するお問い合わせなどは、役場へお寄せください

2005年度 音更町地域新エネルギービジョン ～新エネルギーでつむぐ農業・観光・まちづくり～ 音更町

1 ビジョン策定の背景と目的

豊かな環境と暮らしを次の時代を担う音更の子供たちへ引き継ぐために



地球環境問題

私たちの生活は、非常に便利に、そして快適になりましたが、同時に家庭生活や産業活動を支えるエネルギーが大量に消費され、多量のCO₂（二酸化炭素）などの温室効果ガスが排出されています。

海面上昇や最近の地球規模で発生する大規模な干ばつや集中豪雨などの異常気象は、地球温暖化が原因のひとつといわれています。

資源の枯渇

現在、確認されている石油埋蔵量から計算される可採年数は40年です。これからの資源開発によりこの数字は変動する可能性があります。石油などは限りある資源であることに変わりはなく、石油代替エネルギーである新エネルギーの導入を促進することが重要となっています。

京都議定書が発効

2005年2月16日に地球温暖化防止に向け、京都議定書が発効されました。

国では、1990年と比べてさらに6%分のCO₂（二酸化炭素）などの温室効果ガスを減らすことを世界に約束しています。

海面上昇により水没の危機にある南太平洋の島国ツバル国の島*

音更町地域新エネルギービジョン策定の目的

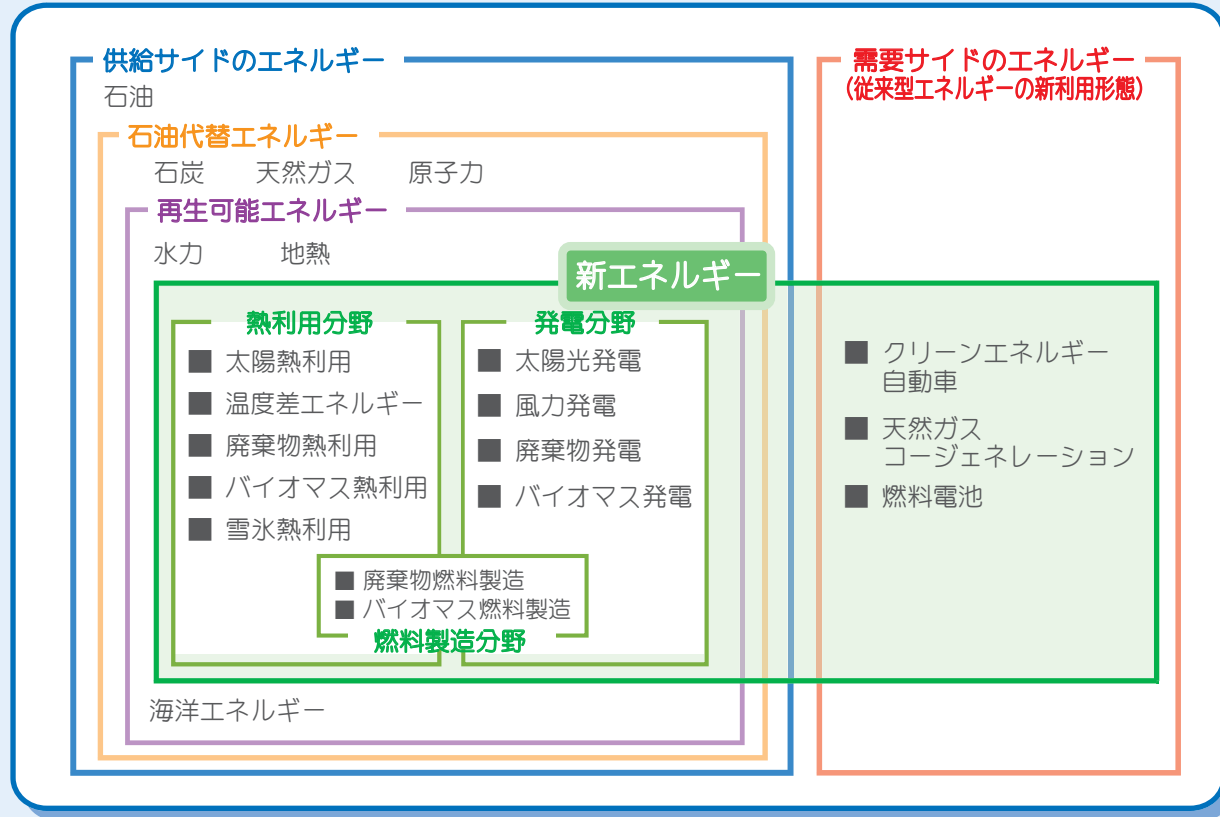
目的

- ① 京都議定書の発効を受け、本町として温室効果ガスの削減に貢献する
- ② 地域のエネルギー資源を活用し、化石燃料になるべく頼らない地域社会を創る
- ③ 新エネルギーを導入しながら農業・観光などの地域産業の振興を図る

2 新エネルギーとは

自然のエネルギーや今まで使われずに捨てられていたエネルギーを使う、地球環境に優しいエネルギーです

新エネルギーの種類には、下の緑で囲まれた14種類があります。新エネルギーは、「技術的には実用段階にありながらも経済性の面で制約があり十分に普及していないもののうち、石油に代わるエネルギーの導入を図る上で特に必要なもの」と位置づけられています。



3 本町で有望な新エネルギー

新エネルギーは、私たちの町の資源です。町一丸となった取り組みにより、導入を進めます。

ビジョンでは、町にとって最も有望な新エネルギーとして4つをあげています。この4つのエネルギーを中心に、各新エネルギーの導入をみなさんと一緒に考えていきます。

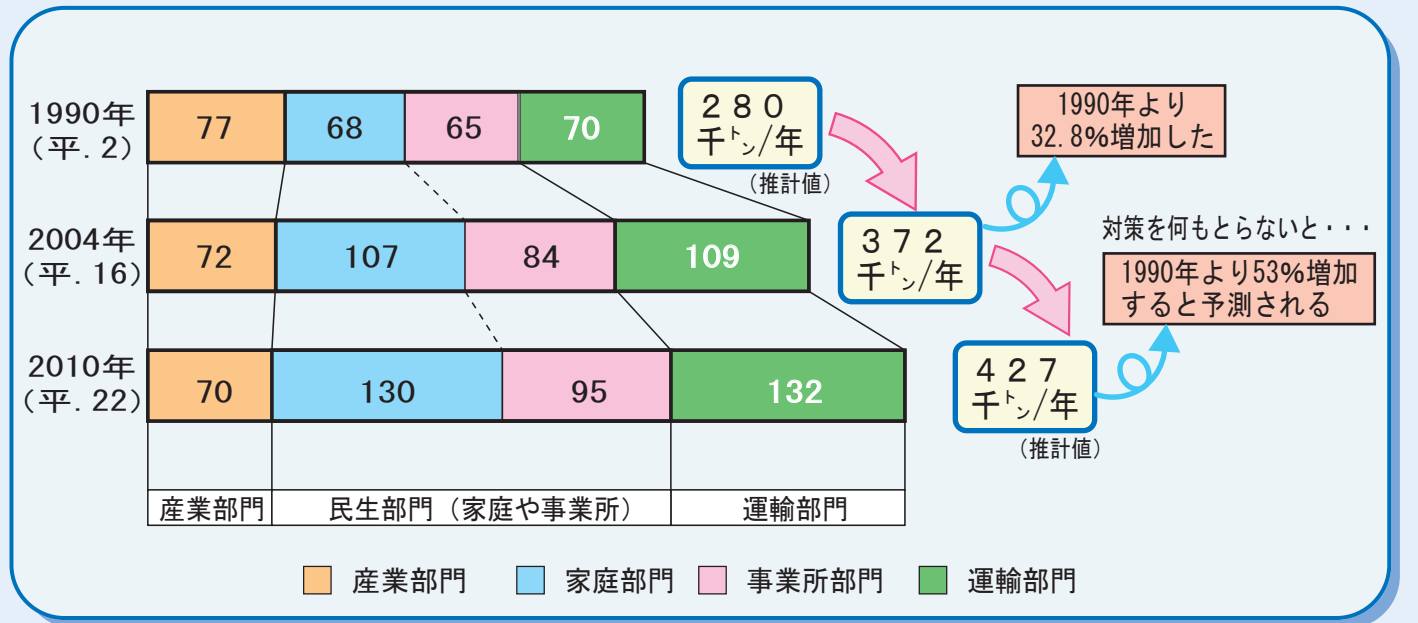
導入可能性 〈高〉	導入可能性 〈中〉	導入可能性 〈小〉
<ul style="list-style-type: none"> 太陽光発電: 全国でも有数の多日照地域 発電効率も全道でトップ 雪氷熱利用: 寒さを生かし、農産物の冷蔵などに活用可能 バイオマス(生活系): 廃食油の活用。全町へ取り組みの環を広げ、環境意識を高める 温度差エネルギー: 大地の恵みを有効に活用し、自然と共生した温泉地形成 	<ul style="list-style-type: none"> 太陽熱利用 天然ガスコジェネレーション バイオマス(農業・畜産系) 燃料電池 バイオマス(林産系) クリーンエネルギー自動車 廃棄物発電・熱利用・燃料製造 中小水力発電* 	<ul style="list-style-type: none"> 風力発電 <p>風が弱く、事業ベースでは、採算がとれない。環境学習用などで活用</p>

4 本町のCO₂排出の現状

地球温暖化防止に向け、私たち一人ひとりの取り組みが大切です

私たちの町は、これまで順調に人口が増え続け、現在の町の人口は1990年(15年前)より約25%、また、世帯数では約50%増えました。同時に、町で消費するエネルギー量も増え続けています。

特に私たちの家庭生活や自動車の利用などにより排出されるCO₂(二酸化炭素)排出量の伸びが大きくなっています。



5 町のCO₂排出削減目標値

私たちのまちの10年間の目標。今からコツコツ取り組むことで、豊かな環境を未来につなぎます

国では、新エネルギーの導入や省エネルギーの取り組みで、CO₂(二酸化炭素)排出量を1990年のレベルまで抑える計画をたてています。そこで町では、推計から今後10年間(2015年)の取り組み目安としての目標値を計算しました。

家の中では

1人当たりの削減の目安 **CO₂削減量0.36 トン/人・年**
→灯油に換算して、年間143リットル分に相当

自動車の利用では

1台当たりの削減の目安 **CO₂削減量0.46 トン/台・年**
→ガソリンに換算すると、年間197リットル分に相当

この数値は、あくまで今後、何も取り組みを行わずCO₂が増え続けた場合に、減らさなければならなくなるCO₂量です。私たち町民一人ひとりが一丸となり、今から少しずつ取り組むことで、上の目標値はもっと少なくなります。

* 中小水力発電は新エネルギーに含まれませんが、国際的には再生可能エネルギーとされています。